The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	Theme 2 : さまざまな対話
Author(s)	
Citation	臨床哲学のメチエ. 2013, 20, p. 29-29
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24944
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

Theme 2
さまざまな対話

以下の３つの文章は、さまざまな場所で実践される「対話」の可能性の探究である。これまでも対話をめぐる多くの報告と考察がなされてきたが、対話について語るべきことは尽きない。今号でも対話への新たなパースペクティヴを提供すべく執筆を依頼した。

文元基宝さんの「歯医者さんでカフェ」は、文元さんが院長を務める歯科医院での対話型カフェをテーマとする。「コンビカフェ」という名のそのカフェは、地域と診療所の中間地帯である「待合室」で開かれる。コンビカフェと待合室は、地域医療のあり方にどのような可能性を与えるのだろうか。

鈴木径一郎さんによる「哲学な対話のかたち、一例—ある日の哲学カフェから」は、2012年9月に中之島のアートエリアB1で開かれた哲学カフェ「話が長いとは？」の報告と考察である。いわゆる「深い」議論とは別の意味で、哲学カフェが「面白い」ものになりうるとすれば、それにはどのような仕方がありうるのか。

辻明典さんの「ガイガーカウンターと喜劇」は、被災地における対話の欠如と必要性を訴える。「放射線を正しく理解する」といった言葉が飛び交う中、福島県南相馬市に住む人々の間に渦巻く不信感と不安を指摘した上で、辻さんは、これらをのり越え町の未来を絶望から救い出すために、対話を始めることの必要性を強く主張する。

三人の執筆者が各自のスタイルで浮き彫りにする、対話の可能性。本特集がこれを読者と共有し、さらに考察を深化・拡張していくきっかけになれば幸いである。